

【第1部】基礎編 (Q1～Q20)

Q1. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

昔、男ありけり。

Q2. 次の傍線部に含まれる「けり」の用法を答えよ。(新古今集・百人一首)

春過ぎて夏来にけらし白妙の衣干すてふ天の香具山。

Q3. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

京に上ぼりけり。

Q4. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

我が思ふ人は、いまや帰りけり。

Q5. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。

朝顔の花ぞ咲きける。

Q6. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。

唐土に渡りける僧。

Q7. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

月清く照りけり。(和歌中)

Q8. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

古き友、まだ生きたりけり。

Q9. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

嵐山に登りけり。

Q10. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

心安く眠りけり。

Q11. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。

花ぞ散りける。

Q12. 次の傍線部「けれ」の用法を答えよ。

月清く照りければ、夜なほ明るし。

Q13. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

我が父、いま静かに眠りけり。

Q14. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

庭に雪は降りけり。

Q15. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

男、女のもとに通ひけり。

Q16. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

風吹き、波荒く立ちけり。

Q17. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。

いとあはれにありがたしと聞こえける人。

Q18. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

文を書きけり。

Q19. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

子をもつ親なりけり。

Q20. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

帝、隠れさせたまひけり。

【第2部】標準編（Q21～Q50）

Q21. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。

なむ／散りける。

Q22. 次の傍線部「けれ」の用法を答えよ。

こそ／思ひけれ。

Q23. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。

や／聞こえける。

Q24. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。

か／散りける。

Q25. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

帝、いといみじく思ほしけり。

Q26. 次の傍線部「けれ」の用法を答えよ。

雪降りけれど、出でぬ。

Q27. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと…と詠みけり。

Q28. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。(和歌)

心あてに折らばや折らむ初霜の置きまどはせる白菊の花…と詠みけり。

Q29. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

春来にけらし。

Q30. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。

我が見ける夢、まさしく現になりぬ。

Q31. 次の傍線部「けれ」の用法を答えよ。

心安かりければ、また訪ねけり。

Q32. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

いつしか日も暮れにけり。

Q33. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

古今集に載れる歌なりとぞ言ひ伝へたる。

Q34. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

鶯の鳴くこと久しくなりにけり。

Q35. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。

我れ知らざりけることの多し。

Q36. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

月夜よし夜よしと人に告げやらば来てふに似たり待たずしもあらず。…と詠みけり。

Q37. 次の傍線部「けれ」の用法を答えよ。

いと哀れと思ひけれど、口に出さず。

Q38. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

山おろし吹き、雪降らせたまひけり。

Q39. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

あはれ、夢なりけり。

Q40. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。

散りにける桜、なほ惜し。

Q41. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

我れもまた老いにけり。

Q42. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

中宮、御覧じて思し召しけり。

Q43. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。

故里に住みける人々、皆絶え果てぬ。

Q44. 次の傍線部「けれ」の用法を答えよ。

暁の月見けれど、心は晴れず。

Q45. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

「夢か」と疑ひけり。

Q46. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

あらたまの年立ち返る朝より待たるものは鶯の声…とぞ詠みたまひける。

Q47. 次の傍線部「けれ」の用法を答えよ。

心づくしの秋風に海はすこし遠けれど、…

Q48. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

雷鳴り、地震ひぬる音、いみじかりけり。

Q49. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。

我に告げける人なし。

Q50. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。

山里は冬ぞ寂しさまさりける人めも草もかれぬと思へば。

【第3部】応用編（Q51～Q80）

Q51. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

いとうつくしと思しめしけり。

Q52. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。

我が住みける里、いまや荒れ果てぬ。

Q53. 次の傍線部「けれ」の用法を答えよ。

物の音もすすろにあはれなりければ、なほ眠らず。

Q54. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

人知れずわが恋ひ死なば誰かはあはれと言はましかば、いかに。

Q55. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。

古へに我れ生まれける心地す。

Q56. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

心づくしの夜の長きを思ふに、よろづ哀れに侍りけり。

Q57. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。

帝、御覧じける夜、ひとへに月清かりき。

Q58. 次の傍線部「けれ」の用法を答えよ。

鶯の声するに、目覚めければ、なほ夜更けず。

Q59. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

待つ甲斐ありて、君ぞ来ましけれ…と思ひけり。

Q60. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。

なむ／参りける。

Q61. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

来ぬ人を待つ夕暮れの秋風はいかに吹けばかわびしかるらむ。

Q62. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

御使ひの帰りつる人に、いと丁寧に問ひけり。

Q63. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。

こそ／嘆きけれ。

Q64. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

もとより知りたることなれど、改めて聞き直しけり。

Q65. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。

や／聞こえける。

Q66. 次の傍線部「けれ」の用法を答えよ。

雪のいと深く降り積もりければ、馬も通はず。

Q67. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

あらたまの年立ち返る朝より待たるるものは…と詠みけり。

Q68. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。

月の明かりければ、夜起きたりける人々、なほ歩み出でぬ。

Q69. 次の傍線部「けれ」の用法を答えよ。

心細く悲しければ、なほ涙とどまらず。

Q70. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

心づくしの秋風吹き、もの悲しくなりけり。

Q71. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。

ぞ／告げける。

Q72. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

「君」とのみ呼ばれて、いかにもあらず侍りけり。

Q73. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。

我が見ける世界、なほ夢のごとし。

Q74. 次の傍線部「けれ」の用法を答えよ。

帰り侍りけれど、心は留まる。

Q75. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

いとど思ひつのもりけり。

Q76. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。

あらまほしき有様にぞありける。

Q77. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

風吹くとしも人もなき山に、人住みけり。

Q78. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。

我れ知らぬことのぞ多かりける。

Q79. 次の傍線部「けれ」の用法を答えよ。

こそ／言はざりけれ。

Q80. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。

夢ばかり見えしほどの面影だになかりけり。

【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

Q81. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。（伊勢物語・初段）

昔、男、初冠して、奈良の京春日の里にしるよしして、狩りに往にけり。その里にいとなまめいたる女はらから住みけり。

Q82. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。(伊勢物語・東下り)

なほ行き行きて、武蔵の国と下総の国との中に、いと大きな河あり。それを隅田河といふ。その河のほとりにむれ
ゐて、思ひやれば、限りなく遠くも来にけるかなとわびあへるに、渡守、「はや舟に乗れ、日も暮れぬ」と言ふに、
乗じて渡らむとするに、皆人ものわびしくて、京に思ふ人なきにしもあらず。さるをりしも、白き鳥の嘴と脚と赤
き、鴨の大きな、水の上に遊びつつ魚を食ふ。京には見えぬ鳥なれば、皆人見知らず。渡守に問ひければ、「こ
れなむ都鳥」と言ふを聞きて、…と詠みけるを聞きて、舟こぞりて泣きにけり。

Q83. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。(土佐日記・冒頭)

男もすなる日記といふものを、女もしてみむとてするなり。…ある人、県の四年五年果てて、例のことどもみなし終
へて、解由など取りて、住む館より出でて、舟に乗るべき所へ渡る。かれこれ、知る知らぬ、送りす。年ごろよく比
べつる人々なむ、別れがたく思ひて、日しきりに、とかくしつつ、ののしるうちに、夜更けぬ。…船路なれど馬の餞
す。…船よそひしつ。さて、十二月の二十日あまり一日の日の戌の時に、門出す。…大津より浦戸を指して漕ぎ出
づ。…道知れる人ひとりふたりして行きけり。

Q84. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。(百人一首・在原業平)

ちはやぶる神代もきかず竜田川からくれなゐに水くくるとは

Q85. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。(百人一首・崇徳院)

瀬を早み岩にせかるる滝川のわれても末に逢はむとぞ思ふ

Q86. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。(古今集・在原業平)

月やあらぬ春や昔の春ならぬ我が身ひとつはもとの身にして…と詠める。

Q87. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。(古今集・紀貫之)

結ぶ手のしづくに濁る山の井のあかでも人に別れぬるかな。…と詠みけり。

Q88. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。(古今集・凡河内躬恒)

心あてに折らばや折らむ初霜の置きまどはせる白菊の花…と詠める。

Q89. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。(古今集・在原業平／伊勢物語)

月やあらぬ春や昔の春ならぬ我が身ひとつはもとの身にして…と詠みて、夜のほのぼのと明くるに、泣く泣く帰りに
けり。

Q90. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。(古今集・紀友則)

久方の光のどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ

Q91. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。(古今集・小野小町)

色見えでうつろふものは世の中の人心の花にぞありける

Q92. 次の傍線部「けれ」の用法を答えよ。(古今集・凡河内躬恒)

春の夜の闇はあやなし梅の花色こそ見えね香やは隠る…と思ひければ、なほ深く嘆く。

Q93. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。(枕草子・第一段)

春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。

Q94. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。(更級日記・冒頭)

あづま路の道のはてよりも、なほ奥つかたに生ひ出でたる人、いかばかりかは怪しかりけむを、いかに思ひはじめけることにか、世の中に物語といふもののあるを、いかで見ばやと思ひつつ、つれづれなる昼間、宵居などに、姉、継母などやうの人々の、その物語、かの物語、光源氏のあるやうなど、ところどころ語るを聞くに、いとどゆかしさまされど、…とぞ思ひける。

Q95. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。(源氏物語・桐壺・冒頭)

いづれの御時にか、女御、更衣あまた候ひたまひける中に、いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めき給ふありけり。

Q96. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。(源氏物語・桐壺)

いづれの御時にか、女御、更衣あまた候ひたまひける中に、いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めき給ふありけり。

Q97. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。(平家物語・冒頭)

祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。…奢れる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。猛き者もつひには滅びぬ、ひとへに風の前の塵に同じ。…遠く異朝をとぶらへば、秦の趙高、漢の王莽、…かやうに勧めおこなふ。

Q98. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。(徒然草・序段)

つれづれなるままに、日暮らし、硯にむかひて、心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。

Q99. 次の傍線部「けり」の用法を答えよ。(方丈記・冒頭)

ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。

Q100. 次の傍線部「ける」の用法を答えよ。(伊勢物語・芥川)

昔、男ありけり。女のえ得まじかりけるを、年を経てよばひわたりけるを、からうじて盗み出でて、いと暗きに来けり。芥川といふ河を率て行きければ、草の上におきたりける露を、「かれは何ぞ」となむ男に問ひける。